

小・中・高・特 合同

平成28年度

教育研究員研究報告書

教育課題

(オリンピック・パラリンピック教育)

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究のねらい	1
III	研究構想図	2
IV	研究方法	3
V	研究内容	
1	基礎研究	3
2	調査研究	6
3	授業研究	8
	(1) 研究主題に迫るための視点について	
	ア 視点1「オリンピック・パラリンピックとの関連の工夫」	
	イ 視点2「自ら行動できるようにするための工夫」	
	(2) 実践事例	
	ア 実践事例1（オリンピック・パラリンピック精神×学ぶ）	10
	イ 実践事例2（スポーツ×支える）	12
	ウ 実践事例3（文化×学ぶ）	16
	エ 実践事例4（環境×学ぶ）	20
VI	研究の成果と課題	24

研究主題

オリンピック・パラリンピック精神を身に付け、 自ら行動できる児童・生徒の育成

I 研究主題設定の理由

平成 32 (2020) 年に、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、「東京 2020 大会」という。）が東京で開催される。東京都教育委員会では、この大会を子供たちにとって、またとない重要な機会と捉え、平成 28 年 1 月に策定した「東京都オリンピック・パラリンピック」実施方針に基づき、平成 28 年 4 月から都内全公立学校において、オリンピック・パラリンピック教育を実施することとした。実施方針にはオリンピック・パラリンピック教育の意義や育成すべき人間像、基本的視点の他、取組の基本的枠組として 4 つのテーマと 4 つのアクションを組み合わせた取組（以下、「4 × 4 の取組」という。）や重点的に育成すべき 5 つの資質及び 5 つの資質を伸ばすための 4 つのプロジェクトなど、学校における取組について示している。

これを受けて、今年度から多くの学校でオリンピック・パラリンピック教育が本格的に開始された一方、これまでの教育活動とオリンピック・パラリンピックとの関連付けについて、試行錯誤を重ねている状況が伺える。平成 27 年度の教育研究員報告書には、様々な教科や領域における具体的な実践事例を増やすことや、校種別、学年別の指導計画の例示などが今後の課題として挙げられている。

また、変化の激しい現代の社会において、学校教育では児童・生徒に対して新しい時代に必要となる資質・能力を育成していくことがより一層重要となっている。「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」（文部科学省 平成 28 年 8 月 26 日）には、アクティブ・ラーニングの視点から学習過程の改善を促し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指すことや、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」といった視点からカリキュラム・マネジメントを実現することなどの方向性が示されている。その上で、次期学習指導要領では「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」、「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性」という新しい時代に必要となる三つの資質・能力の育成を目指している。

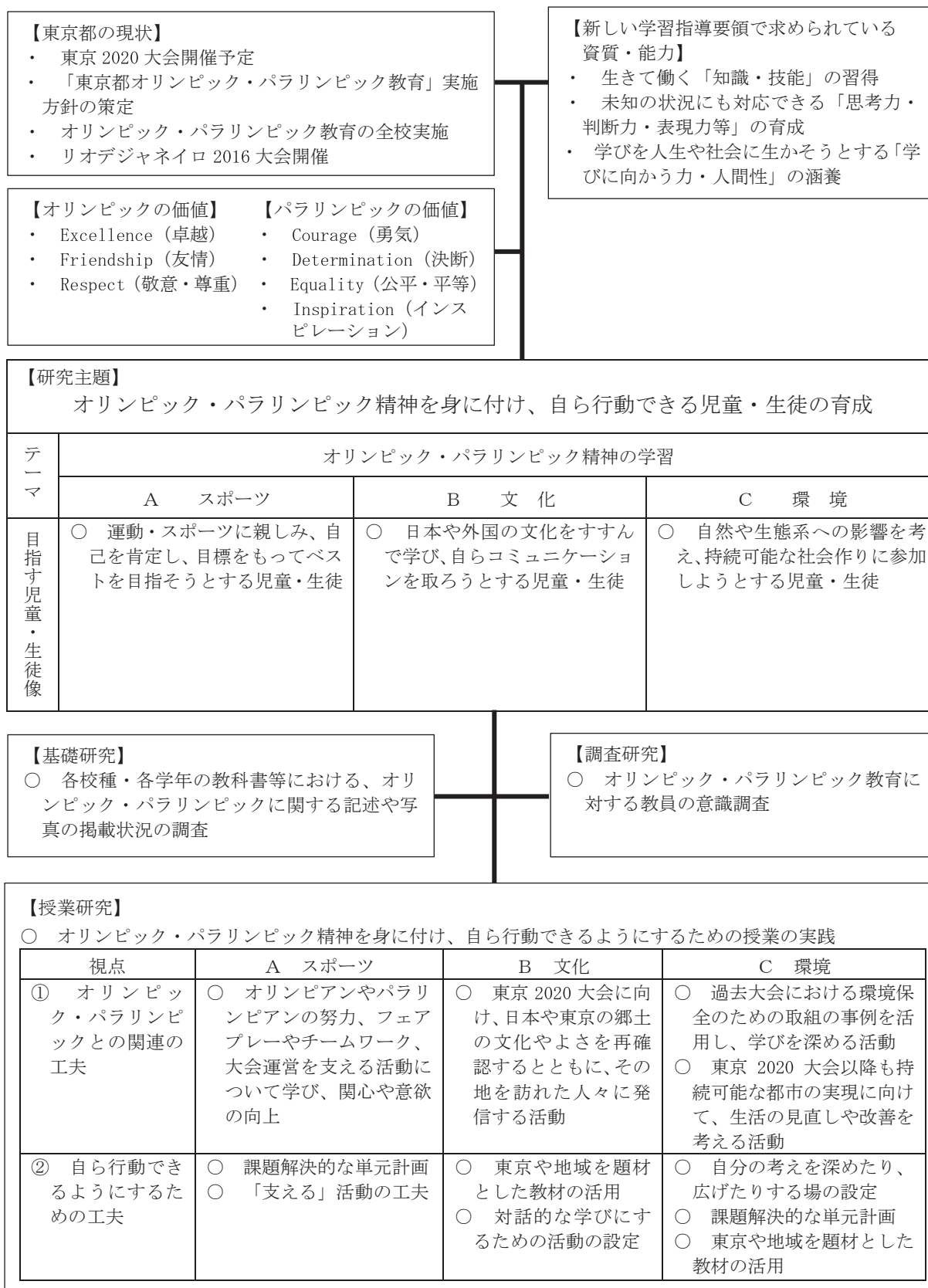
本研究では、このような状況を踏まえ、東京都のオリンピック・パラリンピック教育の充実に資するよう、実施方針に基づいた実践事例の検討及び実践を行うとともに、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくりを目指すこととし、研究主題を「オリンピック・パラリンピック精神を身に付け、自ら行動できる児童・生徒の育成」とした。

II 研究のねらい

オリンピック・パラリンピック教育を充実させるため、次期学習指導要領の視点を踏まえながら、既存の教科や領域の学習において実践できる学習計画や実践事例を明らかにする。

また、児童・生徒がオリンピック・パラリンピックに興味・関心をもち、それらの精神をよく知り、身に付け、主体的に行動できる力を育むことをねらいとした、具体的な授業の展開、改善に取り組み、その方策を提示する。

Ⅲ 研究内容の概要（研究構想図）



Ⅳ 研究方法

1 基礎研究	2 調査研究	3 授業研究
○ 各校種、各学年の教科書における、オリンピック・パラリンピックに関する記述や写真の掲載状況を調査	○ オリンピック・パラリンピック教育の現状と取り組む上での課題を明らかにするため、教員に対する意識調査の実施	○ オリンピック・パラリンピック教育の授業実践 【オリンピック・パラリンピック精神】近隣校とのスポーツイベントの計画などを通してボランティアマインド等を育む授業 【スポーツ】カリキュラム・マネジメントを取り入れ、スポーツを「する」「観る」「支える」姿勢を育む授業 【文化】外国人を案内する活動などを通して、日本や東京の魅力を発見したり、発信したりする授業 【環境】オリンピック・パラリンピックにおける事例を通して持続可能な社会について考え、行動につなげる授業

Ⅴ 研究内容

1 基礎研究

各校種・各学年の教科書及び道徳の副読本（以下、「教科書等」という。）を調査したところ、下記のようなオリンピック・パラリンピックに関する写真や文章記述、図表の掲載が見られた。

これらの内容を、オリンピック・パラリンピック教育で取り上げる4つのテーマ（「オリンピック・パラリンピックの精神（表中では「精神」と記載する。）」、「スポーツ」、「文化」、「環境」）にそれぞれ分類することで、各教科におけるオリンピック・パラリンピックと関連付けた授業実践に活用できると考えた。

(1) 小学校

教科等	単元	掲載されている写真・文章記述・図表等	テーマ
国語	動いて考えてまた動く	著者 高野進氏	スポーツ
算数	算数たんけんたい	高梨沙羅選手の写真	スポーツ
社会	新しい日本	1964年東京オリンピック女子バレーボールの写真	文化
	世界の中の日本	ソチ冬季オリンピック表彰式の写真	スポーツ
	世界の様々な地域	ロンドンオリンピックの開会式	文化
保健体育	病気の予防	パラリンピックスポーツ（ゴールボール）の写真	精神
音楽	ひのまる	ロンドンオリンピック開会式の写真	文化
道徳	ワンダフル・ヒトミ	日本人女性初のオリンピック出場メダリスト人見絹枝氏の話	精神
	きっとできる	自分の目標に向けて頑張った高橋尚子氏のエピソード	
	おもてなし	IOC総会で、招致スピーチを行った滝川クリステル氏（写真）	
	ささえ合い助け合い	ロンドンオリンピック水泳男子メドレーリレーのコラム	
	希望と勇気をもってくじけずに	「希望や目標をもつことが夢に近づく力になる」という内村航平選手の話	
	世界を結んだオリンピック	「世界の人々と親善」におけるピエール・ド・クーベルタン（写真）	
	人間愛の金メダル	1964年東京オリンピックのヨット競技で人命救助を優先したスウェーデンチームの話	
	ゆめに向かって	羽生結弦選手が、いくつもの困難を乗り越えて夢を目指した話	

(2) 中学校

教科等	単元	掲載されている写真・文章記述・図表等	テーマ
社会	世界の様々な地域	ロンドンオリンピックの開会式	文化
	関東地方	オリンピックと東京	環境
	世界の古代文明と宗教のおこり	古代オリンピック	精神
	現代の日本と世界	1964 年東京オリンピック開会式	
数学	オリンピックの優勝記録	歴代オリンピックの陸上記録から予想を立てる	スポーツ
	平面図形	基本の作図、リオデジャネイロオリンピックの開会式会場	環境
	数学を通して考えよう	時差の求め方、オリンピックを観るとき	精神
理科	物体の運動	カーリング、スケート等、多くのスポーツが物体の運動と関連している	スポーツ
英語	世界の笑顔とこんにちは	いろいろな国の「こんにちは」	文化
美術	美術ってなに	日本代表サッカーのユニフォームデザインと美術の関係	スポーツ
	夢を形にするデザイン	パラリンピックの義足のアスリート	
保健 体育	2020 年オリンピック・パラリンピックが日本にやってくる！	私たちは、どのようなかたちで大会に関わることができるだろうか	精神
	国際的大会の役割	国際交流、世界平和、国際親善、メディアの発達	
	人びとを結ぶスポーツ	民族や国・人種の違い	
家庭	食生活と栄養	スポーツと栄養	スポーツ

(3) 高等学校

教科等	単元	掲載されている写真・文章記述・図表等	テーマ
世界史 B	サッカーと世界史	ワールドカップやオリンピックを通じて、グローバルスポーツとしての地位を獲得した	スポーツ
	現代の東アジア	2008 年に北京でオリンピックを開催し、2010 年に上海で万国博覧会を開くことによって、経済発展の様相を世界に改めて示した	精神
	ギリシア文明	4 年に一度開かれるオリンピアの祭典	
	年表	1964 年「東京オリンピック」	
	新冷戦から冷戦の終結へ	アメリカや日本などの西側諸国の多くは、ソ連アフガニスタン侵攻に抗議して、1980 年のモスクワオリンピックをボイコットした。	
	東アジア冷戦体制の変容	翌年にせまるソウルオリンピックへの影響を懸念した全斗煥は再選を断念した。	
地理	図表	「ソウルオリンピック開催」「札幌冬季オリンピック開催」「長野冬季オリンピック開催」	文化
	情報と通信の発達	オリンピック等の国際試合は、世界中で同時中継される。	
	年表	「北京オリンピック開催」	
	経済発展の光と影	2016 年のオリンピック開催地決定も、世界の関心をブラジルに引きつけた。	
	おわりに	ロンドンオリンピック開会式で入場行進する日本選手団	

政治 経済	見返し裏	年表「1964 年東京オリンピック開催」	文化
	日本経済の歩み	年表「1964 年オリンピック景気」	
	日本経済の歩み	岩戸景気、オリンピック景気、いざなぎ景気と続き、1968 年には、日本は GNP が資本主義国でアメリカに次いで第 2 位になるなど、経済大国の仲間入りをした。	
現代 社会	変化する日本経済	オリンピック景気	文化
	後見返し裏	年表「オリンピック・東京大会開催」「冬季オリンピック札幌大会」	
		写真「オリンピック・東京大会の開会式」	
保健 体育	スポーツの始まりと変遷	古代オリンピック、国際スポーツ、国際オリンピック委員会（IOC）について	文化 スポーツ
	武道と日本生まれのスポーツ	オリンピックや国際大会で行われる日本生まれのスポーツについて	
	文化としてのスポーツ	写真「オリンピック旗」「オリンピックシンボル」	
	スポーツとメディア	2000 年オリンピックシドニー大会について	
	オリンピックと国際理解	オリンピズムとオリンピックムーブメント、変貌するオリンピックについて	
	世界の民族スポーツ	近代オリンピックがきっかけとなって生まれた、国際スポーツと民族スポーツについて	文化
	スポーツと経済	オリンピック等のスポーツ大会における経済波及効果について	
	ドーピングの始まりと歴史	オリンピックとドーピングについて	精神
	技能と体力	図表「オリンピックシンボル」	スポーツ
	日本のスポーツ振興	東京 2020 大会に向けた財源、施設・設備、情報、指導者等について	文化 環境
	スポーツと環境	日本オリンピック委員会（JOC）と国際オリンピック委員会（IOC）の環境に関する取組について	環境 スポーツ
家庭 総合	個性の表現	オリンピックの公式ユニフォームのデザインにこめられた意味について	精神 文化

(4) まとめ

オリンピック・パラリンピック教育を年間 35 時間程度実施するためには、都教育委員会が作成・配布した学習読本、映像教材を活用するほか、教科書等に掲載されたオリンピック・パラリンピックに関する情報を活用して、各教科等の学習内容とオリンピック・パラリンピックを関連付けた授業を行うことが有効である。

オリンピック・パラリンピックについて教科書等に写真や文章記述があるものは、教科指導の中でオリンピック・パラリンピック教育を実践できるものである。これらの内容を取り扱う際、教科書に加えて学習読本や映像教材等を活用することで、より効果的なオリンピック・パラリンピック教育の実践が可能となる。

児童・生徒の発達段階や地域特性等を考慮しながらオリンピック・パラリンピックを授業内容に盛り込むことにより、更に幅広い授業展開が可能である。

2 調査研究

(1) 調査のねらい

オリンピック・パラリンピック教育に対する教員の意識調査を行い、現状と課題を明らかにすることにより、全校実施となったオリンピック・パラリンピック教育の推進に寄与する。

(2) 調査内容

「オリンピック・パラリンピック教育に対する教員の意識調査」

オリンピック・パラリンピック教育に対する教員の取組状況や考えを調査する。

(3) 調査概要

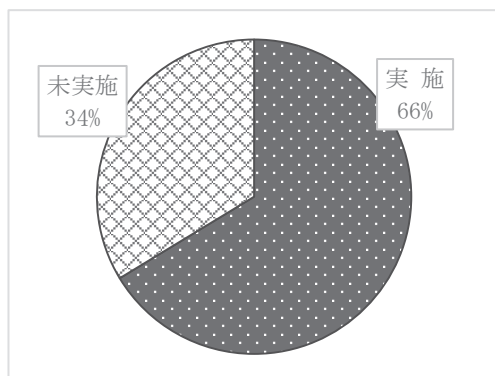
調査期間	平成 28 年 9 月から 10 月まで
調査対象	研究員所属校等の教員（478 名）
調査方法	質問紙法

(4) 調査項目及び結果

「オリンピック・パラリンピック教育に対する教員の意識調査」

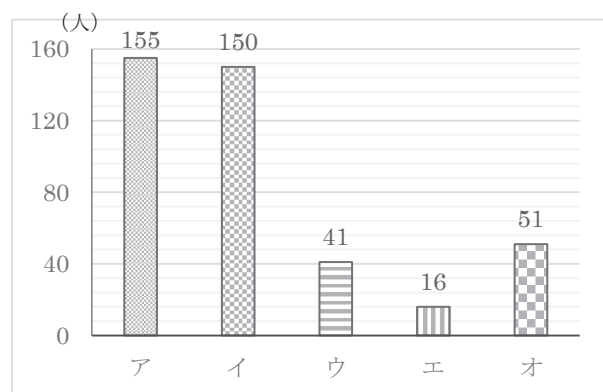
ア オリンピック・パラリンピック教育に位置付けた授業の実施状況

図 1



イ オリンピック・パラリンピックに関する授業を実施した際に活用した教材（複数回答可）

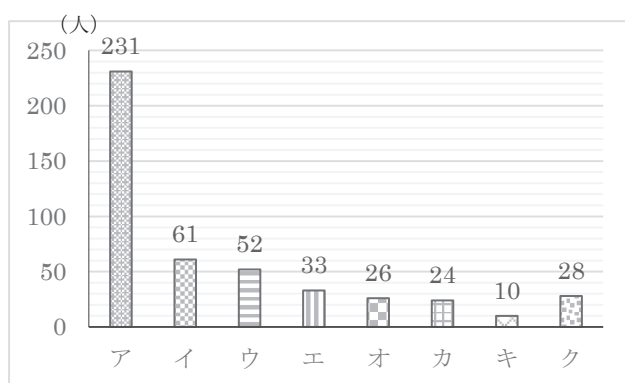
図 2



ア	自作の教材
イ	オリンピック・パラリンピック学習読本、映像教材、東京都教育委員会から配布された資料
ウ	教科書等の記述
エ	使わない
オ	その他

ウ オリンピック・パラリンピックに関する授業を通して見られた、児童・生徒の変容（複数回答可）

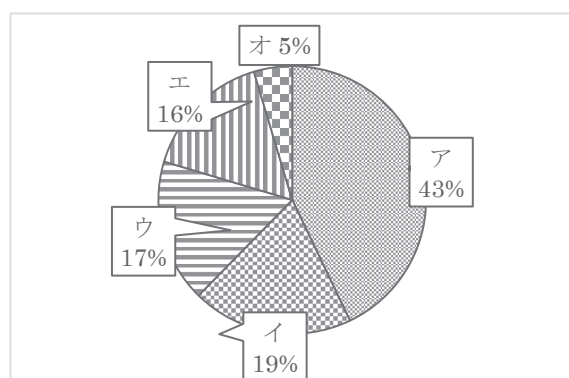
図 3



ア	オリンピック・パラリンピックに対して興味・関心が高まった
イ	日本や東京のよさについて理解が深まった
ウ	フェアプレーやチームワークの精神が身に付いた
エ	多様性を尊重し、障害者を理解する心のバリアフリーが子供たちに浸透した
オ	世界各国の人々と臆せず積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲が高まった
カ	社会に貢献しようとする意欲や他者を思いやるなどのボランティアマインドが高まった
キ	なし
ク	その他

エ オリンピック・パラリンピックに関する授業を取り組む上での課題（択一式）

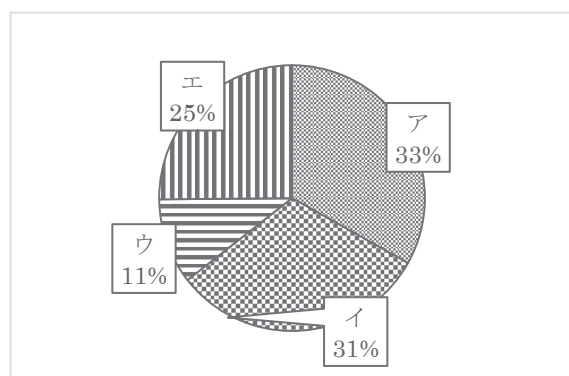
図 4



ア	各教科とオリンピック・パラリンピック教育との関連付けの工夫
イ	児童・生徒の変容の見取り方
ウ	学年に応じた取り上げ方の工夫
エ	授業計画や準備の時間がない
オ	その他

オ 現在、オリンピック・パラリンピックに関する授業に取り組めていない理由（択一式）

図 5



ア	1 単位時間の授業づくり
イ	教科と関連させることが難しい
ウ	1 単位時間の授業展開の方法がわからない
エ	その他

(5) 考察

ア 実施状況（図 1）

今年度よりオリンピック・パラリンピック教育が全校実施になったが、10 月現在でオリンピック・パラリンピック教育を位置付けた授業を実施していない教員が 34% 見られた。各教科の内容とオリンピック・パラリンピックを関連付けた、より多くの具体的実践例を提示し

ていく必要がある。

イ 使用教材（図2）

オリンピック・パラリンピック教育を実施した教員の中で、「教科書等の記述」を活用している教員が約1割と少なかった。オリンピック・パラリンピック教育として授業で扱うことのできる教科書等の記述を整理し、発信することにより、教科指導におけるオリンピック・パラリンピック教育が推進されることが期待できる。

ウ 児童・生徒の変容（図3）

オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心が高まったと感じる教員が多かった。今後は、「4×4の取組」をより多くの教育活動で実践を広げていくとともに、重点的に育成すべき5つの資質を意識した取組が必要である。

エ 取り組む上での課題（図4）

各教科の学習にオリンピック・パラリンピックを関連付けることに難しさを感じている教員が最も多いことが明らかとなった。どの単元のどの学習場面で関連付けることができるのか、オリンピック・パラリンピック教育を実践しつつ、教科の目標をよりよく達成するためにはどのようにすればよいのか、モデルと効果を示す必要がある。

オ 取り組めていない理由（図5）

オリンピック・パラリンピック教育をまだ実施していない教員も、各教科との関連付けに課題を感じていることが明らかとなった。前述のようにモデル作りと実践事例を提示していく必要がある。

3 授業研究

(1) 研究主題に迫るための視点について

研究主題に迫るため、本研究では授業研究の視点として以下の2点を設定した。

ア 視点1「オリンピック・パラリンピックとの関連の工夫」

オリンピック・パラリンピック教育の全校実施にあたり、東京都教育委員会が実施した、「オリンピック・パラリンピック教育の基本的な考え方・進め方に関する説明会」において、多くの学校から寄せられた質問の一つは、どのようにオリンピック・パラリンピック教育を進めればよいのかということであった。

オリンピック・パラリンピック教育は新たな取組を始めるのではなく、各学校で行っている教育活動にオリンピック・パラリンピックを関連付けて行っていくことが可能であることが十分に理解されていないことが伺える。

そこで本研究では、各学校で行われてきた各教科・領域の授業にどのような関連付けの工夫を行うことで、オリンピック・パラリンピック教育が実践できるのか、4つのテーマについて検討を行った。さらに、オリンピック・パラリンピック教育をより効果的に実施するため、「カリキュラム・マネジメント」を踏まえた指導計画や展開の工夫についても検討した。

イ 視点2「自ら行動できるようにするための工夫」

文部科学省の中央教育審議会では、次期学習指導要領改訂に向けた議論の中で、主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善を図ることにより、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力

等」、「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性」という新しい時代に必要となる三つの資質・能力の育成を目指すこととしている。

このことは、以下のオリンピック憲章のオリンピック精神（オリンピズム）について示された生き方に共通する部分も含まれている。

オリンピズムは肉体と意志と精神のすべての資質を高め、バランスよく結合させる生き方の哲学である。オリンピズムはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探究するものである。その生き方は努力する喜び、よい模範であることの教育的価値、社会的な責任、さらに普遍的で根本的な倫理規範の尊重を基盤とする。

「オリンピック憲章」（国際オリンピック委員会 2015 年 8 月 2 日から有効）

本研究ではアクティブ・ラーニングの視点に基づいた「主体的・対話的で深い学び」を含むオリンピック・パラリンピック教育の授業作りのために、学習のめあての具体化・行動化や個人および集団での学習活動における各種思考ツールの活用等について検討し、「何ができるようになるか」について追求することを目指した。

(2) 実践事例

実践事例では、「4つのテーマ」に沿って授業研究を行った。

ア オリンピック・パラリンピック精神

中学校第1学年の保健体育科で、体育理論「運動やスポーツの多様性」の授業を実施

イ スポーツ

小学校第6学年の体育科で、「器械運動（マット運動）」の授業を実施

ウ 文化

小学校第6学年の国語科で、「ようこそ、私たちの町へ」の授業を実施

エ 環境

小学校第6学年の理科で、「生き物の暮らしと環境」の授業を実施

ア 実践事例 1

オリンピック・パラリンピック精神 × 学ぶ (中学校第1学年 保健体育)

1 単元名 体育理論「運動やスポーツの多様性」

2 単元の目標

- ・ 運動やスポーツが多様であることに興味をもち、積極的に学習に取り組めるようにする。
- ・ 運動やスポーツが多様であることについて考え、活用できるようにする。
- ・ 運動やスポーツの多様性について理解し、説明できるようにする。

3 単元の評価規準

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動についての知識・理解
・ 運動やスポーツが多様であることに興味をもち、積極的に学習に取り組もうとしている。	・ 運動やスポーツが多様であることについて考えている。 ・ それぞれの種目の技術や戦術の特性を整理し、分析している。	・ 運動やスポーツの多様性について理解し、自分の言葉で説明することができる。 ・ 運動やスポーツはそれぞれ特有のものがあること、その学び方には一定の学び方があることについて発言したり、書き出したりしている。

4 単元観（オリンピック・パラリンピック教育と本単元の関連）

本単元は、オリンピック・パラリンピックの精神につながる運動やスポーツの必要性、楽しさ、多様な関わり方についての理解が深まるように学習を進めていく。また、理解した内容を生徒が自ら行動できるようにするため、実技の学習や日常生活での運動やスポーツに生かしていけるように具体的な事例を用いながら学習を進めていく。

5 研究主題に迫るための手立て

(1) 視点1「オリンピック・パラリンピックとの関連の工夫」

ア 教科学習とオリンピック・パラリンピックの関連の工夫

運動やスポーツの多様性について具体例としてオリンピック・パラリンピックでの取組を取り上げる。また、東京2020大会に向けて生徒自身が運動、スポーツに対しての多様な関わり方を理解し、身に付けられるように身近な例を通して具体的に考えられるようにする。

イ 学習読本や映像教材の活用

運動やスポーツの必要性や多様性について理解が深められるよう、オリンピック・パラリンピック学習読本（60、61ページ）を活用する。また、オリンピック・パラリンピック精神について学ぶため、オリンピック・パラリンピック教育映像教材を鑑賞する。

(2) 視点2「自ら行動できるようにするための工夫」

ア 他の単元での学習内容との関連付け

体づくり運動の単元においてキンボールを扱い、誰でもすぐに楽しめるニュースポーツを学習した。本単元ではその経験を生かし、「支える」という観点を重視しながら大会運営の企画を考える。

6 本時（第2時／3時間）

(1) 本時の目標

- ・ 運動やスポーツへの多様な関わり方を理解し、自分自身の経験を振り返って、発言したり書き出したりできるようにする。
- ・ 「行う」「見る」「支える」の観点から大会を企画することを通して、運動やスポーツへの多様な関わり方を考えることができるようにする。

(2) 本時の展開

	学習活動	● 指導上の留意点 ◇ 評価規準（評価方法） ☆ オリンピック・パラリンピック教育との関連
導入	1 本時のねらいを確認する。 「運動やスポーツへの多様な関わり方を理解しよう」 2 教科書を読み、運動やスポーツには多様な関わり方があることを知る。 3 学習読本「オリンピックを支えた人々」を読み、「支える」ことについて理解を深める。	● リオ 2016 大会の写真を見ながら、運動やスポーツの「行う」「見る」「支える」の関わり方を確認する。 ☆ 前回の東京オリンピックでは様々な形で大会を支えた人々がいることを知る。
展開	4 運動やスポーツの関わり方の例示を「行う」「見る」「支える」の三つに分類する。 「行う」○運動会のリレーの選手として走る 「見る」○運動会で友達を応援する 「支える」○運動会での審判 ○ボランティア 近隣小学校の6年生と交流キンボール大会を企画しよう。 5 小学6年生と中学生と一緒に活動できる、キンボールを使った大会の運営を考える。 ・ 「行う」「見る」「支える」の観点から自分たちができる活動を考えるようにする。 6 各班で話し合ったことをYチャートに整理し、発表する。	● 例示以外にも、これまでに運動やスポーツに多様な関わり方をしていたことに気付かせる。 ● スポーツには多くの関わり方があることを理解できるようにする。 ◇ 運動やスポーツの多様な関わり方について自身の経験を振り返って、発言している。（知・理 発言）
まとめ	7 教科書を読み、本時のねらいについて振り返る。 ・ オリンピック・パラリンピック学習読本「学習の扉」を読み、東京 2020 大会で自分は何ができるか考えるようにする。	● 対象に合わせて「行う」のルールを変更してもよいことにする。 ● Yチャートを使って「見る」「支える」の観点からも考えるように話す。 ● 「行う」「見る」「支える」それぞれが関わり合うことで、大会全体が充実したものになることを伝える。 ● 大会を企画することも「支える」ことにつながることを知らせる。 ◇ 大会運営の企画に対しての多様な関わり方を考え、積極的に意見を出している。（思・判 発言） ☆ 東京 2020 大会でも多様な関わり方があることに触れる。

※ Yチャート：シンキングツールの1つで、複数の情報を3つの視点に分類する際に使用する。

7 考察

(1) 成果

- ア オリンピック・パラリンピック学習読本を導入時とまとめで使用するにより、運動やスポーツの多様性やそれぞれの活動の意義について、理解を深めることができた。
- イ この単元を通してオリンピック・パラリンピック教育の4つのアクションについて理解することができた。

(2) 課題

- ア 学習活動の必然性が必要であるため、行事や他教科と関連付けていく必要がある。
- イ 「支える」という意識をもてるようにするため、対象や設定を更に具体的に提示する必要がある。

イ 実践事例 2

スポーツ × 支える (小学校第6学年 体育)

1 単元名 器械運動 マット運動 「〇〇〇リンピック」(〇〇〇は学校名)

2 単元の目標

- 基本的な回転技や倒立技を安定して行うとともに、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすることができるようにする。
- 運動にすすんで取り組み、約束を守り、助け合って運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。
- 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方が工夫できるようにする。

3 単元の評価規準

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
- マット運動にすすんで取り組みようとしている。 - 約束を守り、友達と助け合って技の練習や演技をしようとしている。 - 運動する場を整備したり、器械・器具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。	- 技のポイントや自分の課題について考え、自分のめあてを持っている。 - 自分の力に適した練習の場や練習の仕方を選んでいる。 - 技のつなぎ方や組み合わせ方を知るとともに、自分の力に合った技を組み合わせている。	- 自分の力に合った安定的な基本的な回転技や倒立技、及びその発展技ができる。 - 基本的な技を繰り返したり、組み合わせたりすることができる。

4 単元観(オリンピック・パラリンピック教育と本単元の関連)

マット運動は、技に挑戦し、技ができる楽しさや喜びを味わうことができる運動である。また、技を繰り返したり、組み合わせたり、他の児童と合わせたりしながら表現することを楽しむことができる運動である。

本単元では、「すすんで運動に取り組むこと」、「友達と助け合ったり、協力したりしながら運動すること」を重点にし、「チームプレーの精神」を育むために、道徳との関連を図った。第6時の発表会では、選手として「運動する」、観客として「観る」ことに加え、運営側として発表会を「支える」経験を味わわせるために、各教科、学級活動と関連付けた単元計画を作成した。

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 視点1「オリンピック・パラリンピックとの関連の工夫」

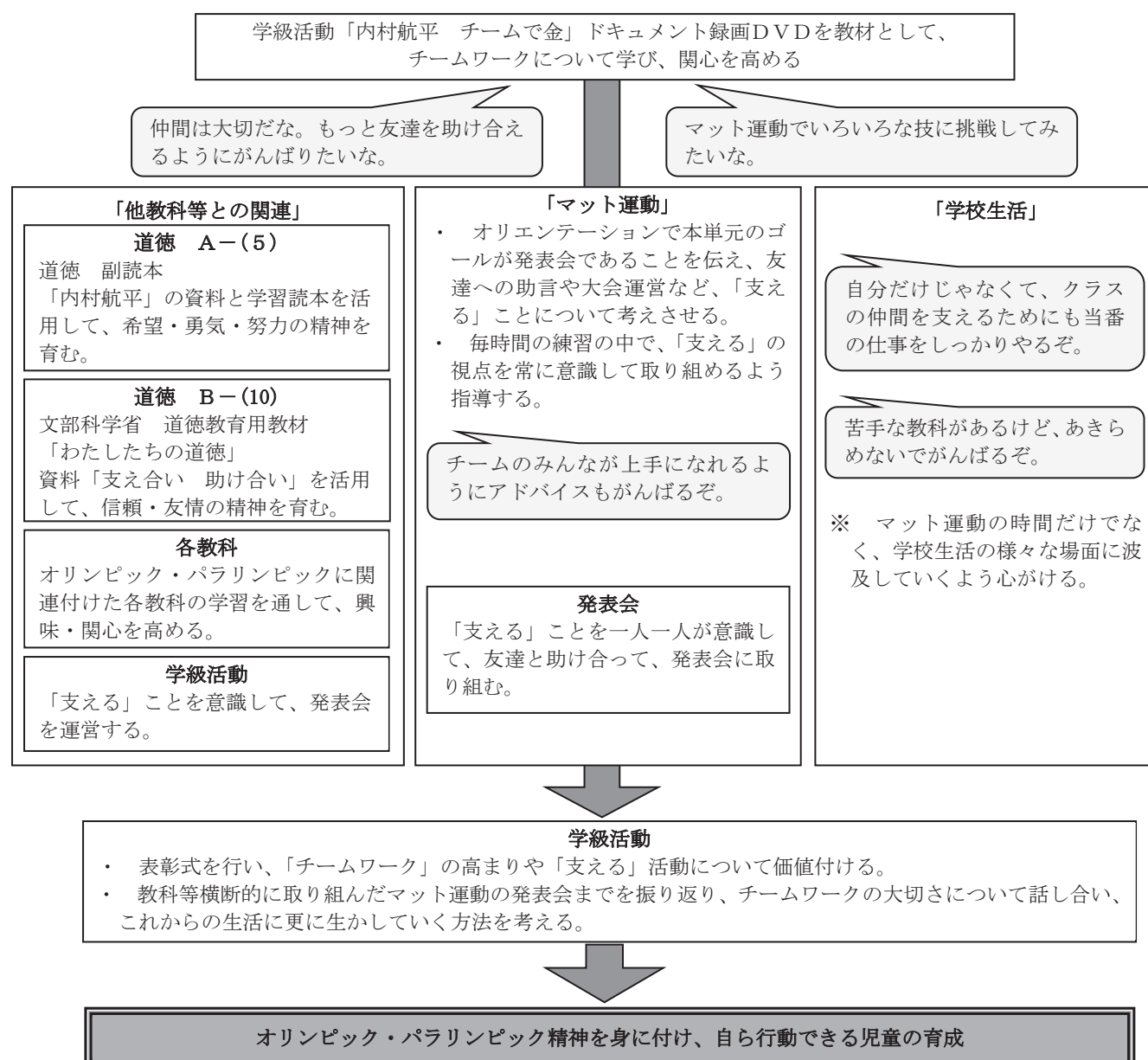
導入として学級活動にオリンピックの体操の演技を見せ、チームワークの大切さについて学び、マット運動への関心を高めた。また、道徳の時間に関連するオリンピック・パラリンピックの価値について学び、学級活動では発表会を成功させるための話し合い活動を実施した。

(2) 視点2「自ら行動できるようにするための工夫」

ア 教科等横断的な単元計画

本分科会では、体育科のマット運動を軸として、他教科等の学習や学校生活と関連させながらオリンピック・パラリンピック教育を進められるような計画を検討した。

〈オリンピック・パラリンピックとの関連を工夫した計画図〉



イ 「支える」活動の工夫

友達と活発に関わり合う中でオリンピック・パラリンピック精神を身に付け、主体的に学習を進められるよう、「支える」活動に重点を置いた指導を行った。

〈本単元における「支える」活動〉

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| 1 準備や片付けを率先して行うこと | 4 発表会の運営をすすんで行うこと |
| 2 場の安全の確保に努めること | 5 練習している友達の補助をすること |
| 3 友達のよいところを称賛したり励ましたりすること | 6 友達にアドバイスをすること |

第6時の発表会において、一人一人が自分の役割に意欲や責任感をもって取り組めるようにするために、運営に必要な役割について学級活動で考えさせた。児童が考えた役割を実際に行うことで、運動やスポーツは選手だけでなく、それを支える人がいて成り立っているということ、運動やスポーツには「する」以外の楽しみ方があるということを体験から学べるようにした。

6 指導と評価の計画（全6時間 オリリンピック・パラリンピック教育として1時間）

時	学習活動	評価規準
1	1 単元の進め方を知る。 2 内村選手がチームを支えていたことを確認する。 3 準備運動・場の準備をする。 4 技の習得に必要な感覚を身に付けるための時間 5 技調べ、工夫された場を経験する。 6 集合・整理運動・片付けをする。 7 学習の振り返りをする。	【関・意・態】 運動する場を整備したり、器械・器具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。 【思・判】 技のポイントや自分の課題について考え、自分のめあてを持っている。
2	1 めあての確認をする。準備運動・場の準備をする。 2 技の習得に必要な感覚を身に付けるための運動をする。	【思・判】 自分の力に適した練習の場や練習の仕方を選んでいる。
3	3 個々の技能を高める時間 第2・3時 自分の力に合った技に取り組む。 第4・5時 技の組み合わせに取り組む。	【関・意・態】 約束を守り、友達と助け合っ て練習しようとしている。
4	4 チームの演技を高める時間 第2時 技を組み合わせる。 第3時 友達と技を合わせる。 第4時 友達・チームと合わせる。 第5時 友達・チームと合わせる。 （チームで見合う）	【技】 基本的な技を繰り返したり、組み合わせたりすることができる。
5	※第2時から第5時にかけて、少しずつ個々の技能を高める時間を減らし、チームの演技を高める時間を増やす。 5 集合・整理運動・片付けをする。 6 学習の振り返りをする。	【関・意・態】 マット運動にすすんで取り組もうとしている。 【思・判】 技のつながり方や組み合わせ方を知るとともに、自分の力に合った技を組み合わせている。
⑥ （本時）	1 めあての確認をする。準備運動・場の準備をする。 2 「○○○リンピック」をする。 ・ オリンピックでの事例を知り、発表会への意欲をもつ。 ・ 学級活動の話し合いをもとに発表会を児童主体で運営する。 ・ リオオリンピック公式テーマソングに合わせて演技する。 3 集合・整理運動・片付けをする。 4 学習の振り返りをする。	【関・意・態】 約束を守り、友達と助け合っ て発表したり、運営にすすんで取り組もう したりしている。 【技】 基本的な回転技や倒立技を安定して 行うことができる。

7 本時（第6時／6時間）

(1) 本時の目標

- ① 基本的な技を安定して行ったり、組み合わせたりすることができるようにする。（技能）
- ② 友達と助け合って発表できるようにする。（態度）
- ③ 自分の力に合った技を組み合わせることができるようにする。（思考・判断）

(2) 本時の展開

	学習活動	● 指導上の留意点 ◇ 評価規準（評価方法） ☆ オリンピック・パラリンピック教育との関連
導 入	1 集合・整列・挨拶をし、めあての確認をする。 みんなで力を合わせて、○○○リンピックを支えよう。	☆ 選手は様々な人々の支えがあって、最高のパフォーマンスを発揮できることを伝える。
	2 準備運動をし、場の準備をする。	● 各部位を十分にほぐすように声をかける。 ● 場の安全に気を配るように、声をかける。

展 開	3 チームの演技を高める時間 チームのめあてを確認し、発表会に向けて練習をする。 4 「〇〇〇リンピック」を行う。 ①開会式 ②発表 ③閉会式 【選手】学習の成果を発表する。 【観客】マナーを守って演技を観る。 【運営】自分の役割を果たす。 【役割】進行・司会、審判、放送、記録・記者、用具・会場、チームリーダー ・ 自分のチームの見所を発表してから演技を開始する。 ・ 各チーム1分、曲に合わせてチーム演技をする。 ・ よいところを考えながら発表会を観る。	● 友達と協力して活動しているかを観察し、助言、指導する。 ☆ リオオリンピックでの観客のマナーについて触れ、観客のマナーの重要性を伝える。 ● 技を滑らかにつなげている児童や友達とタイミングを合わせられている児童を称賛する。 ● マナーを守り、発表のよいところを見つけている児童を称賛する。 ● すすんで友達や発表会を「支える」活動をしている児童を称賛する。 ◇ 友達と助け合って演技しようとしている。 (関・意・態 観察) ◇ 基本的な回転技や倒立技を安定して行うことができる。 (技 観察・学習カード)
ま と め	5 集合・整列・整理運動をする。 6 学習の振り返りをする。 7 挨拶・片付けをする。	● 使った部位を中心に、よく伸ばすよう声をかける。 ☆ オリンピックやパラリンピックでも多くの人が運営に携わっていることに触れ、「支える」ことの大切さに気付かせる。

8 考察

(1) 成果

ア 事前にドキュメント録画を活用しながら、チームワークの精神を学ばせたことで、マット運動の学習に意欲的に取り組むことができた。

イ 発表会を設定したことで、スポーツの大会は選手が活躍している陰で大会を運営している人たちがいることを実感し、「支える」活動の捉え方が広がり、多様な「支える」活動を体験することができた。また、それぞれの役割を果たそうと、児童の学習意欲が向上した。

ウ 「将来オリンピック・パラリンピックにボランティアや応援などで参加したいですか。」というアンケートに対する肯定的な意見は、授業前の約70%に対し、授業後は約80%に増加した。

(2) 課題

ア 集団マットにしたことで、個人の目標とする技の練習時間が短くなり、技能の高まりが十分ではない面もあった。児童の実態に合わせて発表会の形式を工夫することが重要である。

イ 発表会の役割分担、用具の準備などは、体育科以外の教科の中で指導する必要があるため、単元計画を立てる際には他教科との関連を図ることが必要である。

ウ 実践事例 3

文化 × 学ぶ (小学校第 6 学年 国語)

1 単元名 町のよさを伝えるパンフレットを作ろう 「ようこそ、私たちの町へ」

2 単元の目標

- ・ 「町のよさを伝える」ために、書く事柄を収集し、集めた事柄をパンフレットの構成に沿って整理することができるようにする。
- ・ 表現の効果を考えて文章全体の構成や、目次や見出し、リード文、解説文などを工夫することができるようにする。
- ・ 引用したり写真や図を用いたりして、伝えたいことが明確になるように書くことができるようにする。
- ・ パンフレットについて、目的や構成の観点から助言し合うことができるようにする。

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解
・ 町のよさを伝える活動に関心をもち、すすんで調べたりまとめたりしている。 ・ 構成や記述のしかたを考え、パンフレットを作ろうとしている。	・ 書くことを決める際、ブレーンストーミングを活用して、アイデアを出し合っている。 ・ 文章全体の効果を考えて構成するとともに、表現を工夫して書いている。 ・ 目的や相手の知りたい情報に応じて、文章の内容を考えている。 ・ 図表やグラフの特徴、効果を考えて用いている。 ・ 他の人の文章について、目的に照らしてよりよくするための助言をしている。	・ 効果という観点から構成や表現を考えて書いている。

4 単元観（オリンピック・パラリンピック教育と本単元の関連）

本単元は、他者に町のよさを伝えるパンフレット作りを通して、目的や意図に応じて分かりやすい構成をすること、読み手に意図が伝わるように効果的な表現を取り入れて記述すること等をねらいとしている。そこで、東京 2020 大会で自分たちが住む地域を訪れる人をもてなすためにできることを考える活動を取り入れ、外国や国内の他地域の人々をもてなす行動の一つに町のよさを伝えるパンフレット作りを位置付けて学習を行う。パンフレットを読む対象を明確にすることで、目標とする読み手を意識した効果的な表現ができるようにしていきたい。また、町のよさを調べたりまとめたりする活動を通して、様々な日本文化を残している町のよさに気付かせ、地域への愛着や日本人としての誇りと自覚を育んでいきたい。

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 視点 1「オリンピック・パラリンピックとの関連の工夫」

ア 教科学習とオリンピック・パラリンピックとの関連

国語の教科書で例示されている町のよさを伝えるパンフレット作りの活動をより意味ある活動にし、児童が相手意識をもって意欲的に取り組めるようにするために、「東京 2020 大会で国内外から自分たちが住む地域を訪れる人々（以下、地域を訪れる人々）」に向けて発信することを想定して活動に取り組むようにする。

イ オリンピック・パラリンピック学習読本の活用

町のよさを発信する活動が、東京 2020 大会に向けた行動の一つとして位置付けられるよう、世界の人々をもてなす方法について考えるようにする。その際、オリンピック・パラリンピック学習読本を活用し、世界の人々をもてなすには、我が国の文化や伝統について伝えられるようになることが大切であることを意識できるようにする。

ウ 国際交流の視点からの活動

パンフレットを発信する対象となる「地域を訪れる人々」の中に、外国人に向けた視点を含められるようにするため、外国人向けのガイドブックやパンフレットを提示し、外国人が求める情報や必要な情報を考えられるようにする。また、作成するパンフレットの中の施設名等には、既習事項であるローマ字表記を取り入れるようにする。

エ オリンピック・パラリンピック精神を身に付けるための活動

オリンピック・パラリンピック精神を身に付けるため、学級活動の時間に学習読本を活用したオリエンテーションを事前に行う。オリンピック・パラリンピックを開催する目的を正しく理解し、オリンピック・パラリンピックの価値を身に付ける活動の一つとして本単元が位置付けられていることを十分に意識できるようにする。

(2) 視点 2 「自ら行動できるようにするための工夫」

ア 東京や地域を題材とした教材の活用

児童が住む地域は、東京 2020 大会において多くのオリンピック・パラリンピック会場が設置されるため、国内外から注目を集める場所であり、子供たちにも東京大会に向けて積極的に町のよさを伝えられるようになることが期待されている。そこで、「自分たちが住む地域を訪れる人をもてなすために、何ができるのか」という課題を設定し、「区民としてのわたしたち」ができることから町のよさに着目できるようにし、地域への愛着や日本人としての誇りと自覚を育めるようにする。

イ 「対話的な学び」にするための活動

友達の考えを取り入れ、よりよいパンフレットにできるよう対話的な活動を工夫する。

< 題材決定の場面 >

友達と意見を出し合うことで十分に考えを広げ、題材決定に生かせるよう、ブレーンストーミングを活用する。

< 推敲や感想の交流の場面 >

表現面・内容面から助言や感想を伝えられるよう、二色の付箋紙を用意する。

< 話し合いの場面 >

友達の意見との共通点や付け足しなど、視点を明確にしながら話し合えるよう、ハンドサインを活用する。

6 指導と評価の計画（全 13 時間 オリリンピック・パラリンピック教育として 3 時間）

時	学習活動	評価規準
① 本時	- 東京 2020 大会に向けて世界の人々のもてなし方を考え、自分たちが住んでいる町のよいところを伝える活動に意欲をもつ。 - 学習読本を活用し、多くのもてなし方の一つとして「町のよさを発信する活動」があることを理解できるようにする。	【関・意・態】 自分たちが住む地域を訪れる人々のもてなし方について考え、町のよさを伝える活動に意欲をもっている。
2	パンフレットにどんな情報を載せたらよいかについて話し合い、学習計画を立てる。	【書】 パンフレットの特徴を理解している。
3	町のよいところや特徴について、ブレーンストーミングを活用しながら話し合い、パンフレットの構想を立てる。	【書】 読む相手や目的を考えて、パンフレットの構想を練っている。
4	読む相手にとって必要な情報は何かを考えながら、取材計画を立て、取材をする。	【書】 必要な情報を適切な方法で取材している。
5	相手や目的を考えながら集めた情報や材料を整理し、パンフレットの構成を考え、目次の作成と割り付けをする。	【書】 集めた情報を整理し、パンフレットに使いたいものを選んで構成を考えている。
6 7 8	- 自分の伝えたいことが相手に伝わるよう、見出しやリード文など、読み手を引き付ける工夫をして下書きをする。 - 表現方法を工夫して下書きが書けるよう、様々なパンフレットを用意し、読み手を引き付ける表現を見付けるようにする。	【書】 文章全体の効果を考えて構成するとともに、キャッチコピーを付けるなど、表現を工夫して書いている。
9	下書きを友達に読んでもらい、表現の效果に着目して助言し合えるようにする。二色の付箋を用意し、表現面と内容面とを分けて助言できるようにする。	【書】 表現の効果を考えながら目的に照らしてよりよくするための助言をしている。
10 11	- 清書してパンフレットを仕上げる。 - 助言を生かしながらパンフレットを仕上げられるよう、前時の付箋を十分に活用するようにする。	【書】 図表やグラフの特徴、効果を考えて用いている。 【言】 効果という観点から構成や表現を考えて書いている。
⑫	- 清書したパンフレットを読み合い、互いに助言し合う。 - 意図が表れたパンフレットになっているかグループで評価できるよう、作り手は意図を発表するようにする。	【書】 友達のパンフレットについて、内容と表現の面から感想を伝えている。
⑬	- パンフレット作りの活動を振り返り、町のよさを伝える活動の意味について話し合う。 - 区の取組と自分たちの活動の共通点を考えられるようにする。	【関・意・態】 町のよさや活動の意味に気付き、東京 2020 大会に向けての行動に意欲をもっている。

7 本時（第 1 時／13 時間）

(1) 本時の目標

東京 2020 大会に向けて、自分たちが住む町を訪れる人々のもてなし方を考え、町のよいところを伝える活動に意欲をもてるようにする。

(2) 本時の展開

	学習活動	● 指導上の留意点 ◇ 評価規準（評価方法） ☆ オリリンピック・パラリンピック教育との関連
導 入	1 リオ 2016 大会で特に印象に残ったことを発表する。 4×100mリレーで銀メダルを取れたことがすごい。 - 閉会式を見て、次は「東京」だと意識した。 2 東京 2020 大会について知っていることを発表する。 - 新しい競技が追加される。 - 市松模様のエンブレムがある。	☆ 自分たちが住む地域のロゴマーク ☆ 自分たちが住む地域の競技場マップ

展 開	3 東京 2020 大会に向けて自分たちが住んでいる町がどのように変化していくか予想する。 ・ 大会に向けて競技場が整備される。 ・ 外国人観光客が増加する。 4 本時の学習課題を確認する。	● 施設の変化だけでなく、交流の面からの変化について考えるように伝え、外国人観光客の増加に着目できるようにする。
	自分たちが住む地域を訪れる人をもてなすために、区民の私たちはどのようなことができるだろうか。 5 自分たちが住む地域を訪れる人をもてなすために、どのようなことができるかを話し合う。 6 自分の考えやグループで話し合ったことを基にクラス全体で話し合う。 ・ 相手のことも知った上で受け入れられるよう、外国の文化や伝統について学ぶ。 ・ 観光でも楽しんでもらえるように、自分の国や町について紹介できるようにする。	● 学習課題の文言の「自分たちが住む地域」というキーワードに着目させ、自分たちにできることについて考える意欲をもたせる。 ● 友達の意見を聞いて考えを広げられるよう、友達の意見をノートに付け足すように伝える。 ● 何のために行うことかを明確にさせるために、理由を述べさせるようにする。 ● 出た意見を関連図にして板書にまとめる。
ま と め	7 学習読本「世界の人々と交流しよう」を読み、外国の人をもてなすために自分たちにできることに確かめ、今後の活動に意欲をもつ。 8 考えたことをノートに書き、発表する。 ・ 区民として町のよさを伝えられるようにしたい。 ・ 町にはよいところがたくさんあるから、この町ならではのものを伝えられるようにしたい。	☆ オリンピック・パラリンピックを契機に世界中から大勢の人が訪れ、交流の機会が増えることを伝える。 ● 自分たちが話し合ってきたことと読本に書かれていることの共通点を確認し、自分たちの考えた活動が実際に求められている活動であることを確かめられるようにする。 ◇ 自分たちが住む地域を訪れる人々のもてなし方について考え、町のよさを伝える活動にすすんで取り組もうとしている。 (関・意・態 ノート・発言)

8 考察

(1) 成果

ア パンフレット作りが世界の人を「もてなす」方法の一つであることの認識をもたせることができた。また、東京 2020 大会に向けた行動の一つとしてパンフレット作りに取り組むことで、学習の必然性が生まれ、意欲が高まった。相手意識が明確になったことで、教科のねらいの達成に有効であった。

イ 自分ができる行動を考えてから学習読本を活用したことで、自分たちの考えたことが実際に求められている行動であることを確認することができた。

(2) 課題

ア 児童たちから出た意見を板書にまとめる際、「すぐにできること」と「これからできること」という視点で分類してまとめると、東京 2020 大会までの 4 年間にどのようなことができるのかについて、より児童に見通しをもたせることができたと思われる。

イ 関連図に書かれた内容のうち、実施可能なものに取り組むためには、教科等横断的な指導が必要である。

エ 実践事例 4

環境 × 学ぶ (小学校第 6 学年 理科)

1 単元名 生き物のくらしと環境

2 単元の目標

生き物と食べ物、空気、水との関わりに興味をもち、これまでの学習や生活経験、東京 2020 大会と関連付けながら、人や動物の食べ物の元は植物であり、生き物同士は「食べる」「食べられる」という関係でつながっていること、空気中の酸素は植物が出していること、水は生き物にとって不可欠な物であることを、実験したり資料で調べたりして知り、生き物は互いに関わり合って生きていることを捉えることができるようにする。

また、国際オリンピック委員会の使命に「環境問題に対し、責任ある関心を持つことを奨励し支援すること」があり、理科のねらいと合致する部分に関連付けて、本単元のねらいの一つとする。

3 単元の評価規準

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての 知識・理解
・ 生き物と食べ物、空気、水との関わりに興味をもち、すすんでそれらの関係について考えようとしている。 ・ 自分たちの生活が生き物や食べ物、空気、水とどのように関わっているのか、学んだことをもとにすすんで考えようとしている。	・ 人やほかの動物の食べ物の元は植物であることを理解し、自分の考えを表現している。 ・ 生き物同士は、「食べる」「食べられる」という関係でつながっていると考え、生き物の食べ物を通した関わりについて、自分の考えを表現している。	・ 植物を袋に密閉して日光に当て、中の酸素と二酸化炭素の体積の割合の変化を、気体検知管を正しく使って調べ、記録している。 ・ 生き物と水との関わりについて資料などを基に調べ、結果をまとめている。	・ 生き物同士は、「食べる」「食べられる」という関係でつながっていることを理解している。 ・ 生き物は酸素を取り入れて二酸化炭素を出しているが、植物は日光に当たると、二酸化炭素を取り入れて酸素を出すことを理解している。 ・ 生き物は、体内に水を取り入れて生きていることを理解している。

4 単元観(オリンピック・パラリンピック教育と本単元の関連)

本単元では、生き物は、空気、食べ物、水を通して、互いに関わり合って生きているという見方や考え方ができるとともに、自然界のつながりについて総合的に捉えることができるようにすることがねらいである。

「環境」については、オリンピック・パラリンピック競技大会における環境保全の事例を取り上げて疑問を投げかけることで、自らの考えを深めたり広げたりすることが可能であり、児童が、持続可能な社会作りに参加しようとする意識をもつきっかけとすることができる。

本単元では、生き物の周りの環境との関わり合いに関して学び、第 6 学年最後の単元「地球に生きる」で人が環境に及ぼしている影響についての学習へとつなげていく。

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 視点 1「オリンピック・パラリンピックとの関連の工夫」

ア 環境保全のための取組の事例を活用し、学びを深める活動

「環境」の視点から「理科」の単元の内容理解がより深化できるようにするため、環境に関連する単元にオリンピック・パラリンピックの環境保全の事例を取り扱う。第6時（本時）では、リオ2016大会、東京2020大会での環境をよりよくするための取組を紹介する。

イ 持続可能な都市の実現に向けて、生活の見直しや改善を考える活動

自分の生活・行動が環境にどのような影響を与えるのかを知る場を設定する。

ウ カリキュラムマネジメントの工夫

オリンピック・パラリンピックの開催における環境保全の取組からオリンピック・パラリンピック精神を学ぶことができるよう、カリキュラム・マネジメントの視点で単元計画を構築していく。理科や総合的な学習の時間、道徳の時間等の各教科領域の教育内容を相互の関係で捉え、組織的に配列をする。

道徳「自然愛」の価値を学ぶ時間と関連付けた学習

○ 学習読本の活用

- ・ オリンピックが目指すもの
- ・ オリンピック・パラリンピックと環境

本単元

理科「生き物のくらしと環境」

理科「人と環境」

○ 実生活との関連をより強める

- ・ 自ら行動できるようにする
- ・ 本単元での提言を見直し、新たな提言を立てられるようにする。

(2) 視点2「自ら行動できるようにするための工夫」

ア 自分の考えを深めたり、広げたりする場の設定

- ・ 身近なテーマを取り上げることで、より主体的に考えをもてるようにする。
- ・ 視点を広げて、自分自身が考えていなかったことに気が付けるよう、班の友達と意見交換をしながら問題について考える時間を設定する。

イ 課題解決的な単元計画

- ・ 自分の生活・行動が環境にどのような影響を与えるのか考え、排水の仕方やごみの処理の仕方などを振り返り、見直す時間を設定する。
- ・ 学習したことをもとに、環境保全のために自分自身ができることを考え、友達と共有する場を設定する。考えたことをオリンピック・パラリンピック学習ノートに記入する。

ウ 東京や身近な地域を題材とした教材の工夫

- ・ 東京2020大会に向けて、環境面での課題について児童に紹介する。
- ・ 世界的な問題から、日本、そして地域へと焦点を身近な生活に近付けることにより、日常生活の改善に目を向けさせる。

6 指導と評価の計画（全6時間 オリンピック・パラリンピック教育として1時間）

時	学習活動	評価規準
1	・ 生き物と食べ物、空気、水との関わりについて考える。	【関・意・態】 生き物と食べ物、空気、水との関わりに興味をもち、すすんでそれらの関係について考えようとしている。
2	・ 人やほかの動物の食べ物の元は何かを考え、一つ一つの材料や食べる物をたどってみる。	【思・表】 人や他の動物の食べ物の元は植物であると考え、表現している。

3	- 動物には、植物を食べて生きているものがあること、その動物もほかの動物に食べられることがあることなど、生き物には「食べる」「食べられる」という関係があることを調べる。 - 生き物の食べ物を通した関わりについてまとめる。	【思・表】 生き物同士は、「食べる」「食べられる」という関係でつながっていると考え、生き物の食べ物を通した関わりについて、自分の考えを表現している。 【知・理】 生き物同士は、「食べる」「食べられる」という関係でつながっていることを理解している。
4	空気中に酸素を出している物は何かを考え、植物が二酸化炭素を取り入れて酸素を出しているかを調べ、まとめる。	【技】 植物を袋に密閉して日光に当て、中の酸素と二酸化炭素の体積の割合の変化を、気体検知管を正しく使って調べ、記録している。 【知・理】 生き物は酸素を取り入れて二酸化炭素を出しているが、植物は日光に当たると、二酸化炭素を取り入れて酸素を出すことを理解している。
5	- 生き物と水との関わりについて考え、まとめる。 - 自然のなかで、水や空気がどのように循環しているかを考える。	【技】 生き物と水との関わりについて資料などを基に調べ、結果をまとめている。 【知・理】 生き物は、体内に水を取り入れて生きていることを理解している。
⑥ (本時)	生き物と食べ物、空気、水との関わりについて人の生活が自然にどのような影響があるのか考える。 <u>トライアスロンやセーリングを行う会場の水質をよくするためのリオデジャネイロ市の取組について知り、人の生活が環境に与える影響について考える。</u>	【関・意・態】 自分たちの生活が生き物や食べ物、空気、水とどのように関わっているのか、学んだことを基にすすんで考えようとしている。

7 本時

(1) 本時の目標

自分たちの生活が生き物や食べ物、空気、水とどのように関わっているのか、学んだことを基にすすんで考えようとしている。

(2) 本時の展開

	学習活動	● 指導上の留意点 ◇ 評価規準（評価方法） ☆ オリンピック・パラリンピック教育との関連
導入	1 前時までに学習した「生き物と水・空気との関わり、自然の中での循環の様子」について振り返る。 2 リオデジャネイロオリンピックのセーリング会場になったグアナバラ湾の水質問題について知り、人の生活が自然にどのような影響を及ぼすのか考え、学習問題を設定する。	● 理科としてのねらいを明確にするために、前時までの振り返りを行う。 ☆ 「環境」の視点から「理科」の単元の内容理解がより深化できるようにするため、オリンピック・パラリンピックの環境保全の事例を取り上げる。
展開	私たちの生活は自然にどのような影響を与えているのだろうか。 3 自分たちの暮らしは自然にどのような影響を与えているのか考える。 4 考えたことをカードに書き、観点別に分類できるよう、話し合いながら黒板にカードを貼る。	● 世界的な問題から、日本、そして地域へと焦点を身近な生活に近付けることにより、日常の生活を改善に目を向けさせる。 ● 自分の生活・行動が環境にどのような影響を与えるのか考え、排水の仕方やごみの処理の仕方などを振り返り、見直す時間を設定する。 ● 視点を広げて、自分自身が考えていなかったことに気付けるよう、友達と意見交換をしながら問題について分類し、考える時間を設定する。 ◇ 自分たちの生活が生き物や食べ物、空気、水とどのように関わっているのか、学んだことを基にすすんで考えようとしている。（関・意・態 発言・記録）

まとめ	5 分類された考えを基に、自分たちの生活の課題についてまとめる。 6 東京 2020 大会で使われるお台場海浜公園の水質問題や改善のための取組を知り、自分の生活と自然との関わりを意識する。	☆ 学習したことを基に、環境保全のために自分自身ができることを考え、友達と共有する場を設定する。考えたことをオリンピック・パラリンピック学習ノートに記入する。 ☆ 東京 2020 大会に向けて、環境面での課題について児童に紹介する。
-----	--	--

8 考察

(1) 成果

ア リオ 2016 大会や東京 2020 大会での環境に対する取組を導入場面に取り上げることで、学習の必然性を意識した学習展開を行うことができた。

イ 道徳での「自然愛」の授業や前学年の社会科・総合的な学習の時間での見学や学習と関連させ、オリンピック・パラリンピックにおける環境問題への取組を様々な視点から理解する場を設定したことや、オリンピック・パラリンピック学習読本の活用により、内容理解が深まるとともに、関心・意欲を高めることができた。

「オリンピック・パラリンピックを開催することは、環境(山林・海・川など)に関係があると思いますか」というアンケート項目に対して、事後の調査では 30 人中 28 人が「関係があると思う」と回答した。

ウ 授業のまとめの段階でオリンピック・パラリンピック学習ノートに分かったことを記述する時間を設定した。ノートには以下のような自己の行動に結び付けた記述が見られた。

- ・ 「油ものの汚れはすぐに流さず、ふき取ってから洗います。」
- ・ 「お台場の海は東京 2020 大会の競技に使われる場所なので、きれいな海にしたいと思いました。」

(2) 課題

ア 教科・領域等のねらいから外れることがないよう、単元計画やカリキュラム・マネジメントの更なる検討や工夫が必要である。

イ 自由記述欄には、「水質をよくするために、生活排水の出し方に気を付ける」といった、本時の学習内容を意識した記述とともに、自然破壊やゴミ問題、エネルギー問題といった水質問題以外の環境問題についての記述も多く見られたため、授業のねらいに沿った思考・表現が可能になるよう、焦点化した発問を行う必要がある。

Ⅳ 研究の成果と課題

1 研究の成果

(1) 基礎研究

各校種・各教科の教科書の中にオリンピック・パラリンピックに関連した写真や文章記述が多数あることが明らかとなった。教科書と学習読本や実践事例集等を併せて活用することで、より効果的な授業展開が可能であると考えられる。

(2) 調査研究

ア 多くの教員が、東京都から配布されている学習読本や映像教材、自作の教材などを活用していることが明らかとなった。

イ オリンピック・パラリンピック教育に取り組む上での課題は、各教科の学習にオリンピック・パラリンピックを関連付けていくことであることが明らかとなった。今後はより多くの具体的な実践事例を示していくことが必要である。

(3) 授業研究

ア オリンピック・パラリンピック精神を身に付け、児童・生徒が自ら行動できるための授業の工夫について明確にすることができた。

- ・ 各教科におけるオリンピック・パラリンピックとの関連付け
- ・ カリキュラム・マネジメントの工夫
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の視点の導入
- ・ 東京や地域を題材とした教材の工夫

イ 各教科に関連付けたオリンピック・パラリンピック教育の実践事例を、4つのテーマに即して示すことができた。

2 今後の課題

(1) オリンピック・パラリンピックとの関連付けが可能な単元の提示

各教科の目標を達成しつつ、オリンピック・パラリンピック教育を実施するために、どの単元、どの学習場面で学習読本や映像教材、オリンピック・パラリンピックに関する題材等を活用することが望ましいのかについて検討し、提案していく必要がある。

(2) 重点的に育成すべき5つの資質との関連付け

重点的に育成すべき5つの資質は「4×4の取組」においても育成できると示されている。これらの資質の育成につながる実践事例を開発する必要がある。

(3) 主体的に行動する児童・生徒の育成

「主体的・対話的で深い学び」の視点やカリキュラム・マネジメントなど、次期学習指導要領のねらいを踏まえ、より一層、主体的に行動する児童・生徒の育成につながる学習計画や実践事例を検討していく必要がある。

平成28年度 教育研究員名簿

小・中・高・特合同 ・ 教育課題（リビッ・パ・リビッ教育）

学 校 名	職 名	氏 名
江 東 区 立 豊 洲 北 小 学 校	主幹教諭	工藤 史子
世 田 谷 区 立 松 原 小 学 校	主幹教諭	江舟 明夫
中 野 区 立 若 宮 小 学 校	主幹教諭	佐藤 和美
足 立 区 立 中 島 根 小 学 校	主幹教諭	○ 小出 紀幸
東 京 都 立 山 崎 高 等 学 校	主幹教諭	藤田 理佳
東 京 都 立 町 田 の 丘 学 園	主幹教諭	◎ 宮原 興龍
東 京 都 立 府 中 け や き の 森 学 園	主幹教諭	増田 衛
新 宿 区 立 柏 木 小 学 校	主任教諭	小峯 容子
江 東 区 立 明 治 小 学 校	主任教諭	加藤 英嗣
目 黒 区 立 碑 小 学 校	主任教諭	小林 真実
江 戸 川 区 立 南 葛 西 第 二 小 学 校	主任教諭	関間 大一郎
江 戸 川 区 立 清 新 第 一 小 学 校	主任教諭	○ 伊藤さきえ
八 王 子 市 立 横 山 第 二 小 学 校	主任教諭	上田 隆司
八 王 子 市 立 城 山 小 学 校	主任教諭	○ 中嶋 周作
町 田 市 立 南 第 四 小 学 校	主任教諭	大垣 進吾
武 蔵 村 山 市 立 第 三 小 学 校	主任教諭	芳井 伸彦
稲 城 市 立 稲 城 第 六 小 学 校	主任教諭	土井 建
練 馬 区 立 貫 井 中 学 校	主任教諭	梅川 恭子
府 中 市 立 府 中 第 八 中 学 校	主任教諭	古賀 旭
瑞 穂 町 立 瑞 穂 中 学 校	主任教諭	高橋 常郎
東 京 都 立 東 久 留 米 総 合 高 等 学 校	主任教諭	富田 紗生
東 京 都 立 青 山 特 別 支 援 学 校	主任教諭	岩本 真奈

◎世話人 ○副世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課
指導主事 佐々木 心哉

平成 2 8 年度

教育研究員研究報告書
小・中・高・特 合同・教育課題
(オリンピック・パラリンピック教育)

東京都教育委員会印刷物登録

平成 2 8 年度第 1 4 2 号

平成 2 9 年 3 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 株式会社オゾニックス